

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

山陽エア・ケミカルズ株式会社 大竹工場

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市東栄二丁目 1 番 2 1 号

(3) 業種

圧縮ガス・液化ガス製造業 1 6 2 3

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成 2 5 年度を基準年度とし、令和 6 年度から令和 1 0 年度までの 5 年間とする。

3 計画の基本的な方向

経営理念は

「山陽エア・ケミカルズの設立目的は、顧客に対して高品質の製品を安価に安定して供給することである」であり、従来より製品を安価に供給するためにエネルギー使用合理化に取り組んでいます。

電力事業者から購入する電気エネルギーがCO2排出のほぼ全てを占めており、エネルギー原単位を年間1%向上させることを目標に省エネルギーに取り組んでいます。すなわちエネルギー原単位の向上分がCO2削減になります。

現在、当社は空気分離装置 2 基を所有しており、うち 1 基は稼働 2 8 年目を迎えております。長期稼働している熱交換器等の機器の清掃および更新を定期的の実施し、熱交換効率の改善を図るとともに、需給状況に応じ適正な運転モードで運転することによって、エネルギー原単位の改善に取り組んでまいります。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 2 5 年度	令和 5 年度
二酸化炭素	21,096	22,487

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 （ ） 年度	令和 （ ） 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 （ ） 年度	令和 （ ） 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF ₆ NF ₃)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		—		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

千Nm³

単位：排出量(t-CO₂)、原単位量(kg等)、削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 2 5 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 1 0 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	21,096	65,360	0.32	37.5	22,200	110,000	0.20
非エネルギー起源CO ₂				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	—	—	9,910	-6.3	—	—	10,530
目標設定の考え方	・熱交換器の清掃、更新 ・需給状況に応じた運転モードの選択 による消費電力効率の改善および年間生産量の増加						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	電力使用量の低減	電気使用量を1.0%削減	・ 定期整備での熱交換器清掃、更新計画立案 ・ 需給会議による需要動向の把握、それに応じた適切な運転モードでの運転
2			
3			
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制

エネルギー管理統括者	代表取締役	上羽 尚登
エネルギー管理企画推進者	取締役	長濱 健太郎
エネルギー管理者	大竹事務所長	日下部 哲二
	大竹製造1課 課長	小坂 寿誉
・品質に関わる会議として	ISO品質管理委員会	
・生産に関わる会議として	生産計画会議	
	需給会議（ユーザーへの需要に応じた生産計画の効率化を検討）	

(2) 実施状況の点検・評価

- ・年次予算会議にて定期修理時の熱交換器整備計画の立案・承認
- ・月次の需給会議にて需要をヒヤリング、それに基づく運転計画の立案
- ・月次生産実績表にて電力原単位の算出
- ・生産計画会議および需給会議に電力原単位実績をフィードバックし評価

(3) 計画書等の公表

各部署に書面にて回付



山陽エア・ケミカルズ(株)
大竹工場

岩国大竹工場（大竹地区）構内図

2021年8月12日現在
太線内を工場構内とする。

